

プロジェクトリーダー:愛知工業大学 工学部 建部謙治教授

事業実績調書

(1) プロジェクト名	教員・児童を対象とした安全・安心行動計画
(2) プロジェクトの成果 (※そのような成果が得られたかについて具体的に記載)	
<p>今回、教員の手作りの防災すごろくを制作し、その効果を確認できた。現在学校で行われている避難訓練は実際に行動して体験する「実動型」に分類されるのに対し、防災すごろくは、防火の知識を高める訓練で、「知識型」に分類することができる。従来型の避難訓練に対し、新しい訓練として防災すごろくを加えることで児童の防災対応力が向上すると考えた。また、ゲーム感覚で取り組むことができるので、児童が興味を持ちやすく積極的な学習が見込まれた。その結果、</p> <ul style="list-style-type: none">・児童のことを考え制作した防災すごろくは、従来の防災訓練（避難訓練）よりも児童の興味や関心を得ることができた。これにより防災訓練への積極的な参加が期待できる。・防災すごろくを教員自身が制作することで、既製品を使用する場合とは違い、教員の災害に対する知識も高くなり、児童たちに自信をもって防災指導をすることができた。・児童へのアンケートから、従来型の避難訓練も高く評価されていたが、実動型の避難訓練に知識型の防火すごろくを加えることで、防災訓練全体の効果が底上げされると考えられる。	
(3) プロジェクト実施内容 (※事業の実施方法、時期、場所、回数、市民への周知方法、参加人員等を含め、その内容を具体的に記載)	
<p>2016年6月29日から、せとティーチャーズアカデミーのプロジェクトについての話し合いが始まった。中心のメンバーは愛知工業大学教授、幡山西小学校教諭、愛知工業大学学部生の3名で、話し合いの会場は幡山西小学校と愛知工業大学で交互に行った。8月24日に行われた“せとティーチャーズアカデミー”の一部では、大学教授による「学校における火災安全と訓練」の講義。第二部では、26人の教職員と9名の学部生がグループごとに火災を対象にしたゲーム感覚の防災すごろくを作成するワークショップを行った。その後、教員らによって作成された4つの防災すごろくをもとに、11月18日に愛知工業大学で問題や方法を教員ら10名で再検討し、一つのすごろくに集約していった。そこから、何回かの修正を繰り返し、12月7日に一旦完成し、12月12日に幡山西小学校児童に実践してもらうことになった。これによって実際に行うことでしか分からない問題点や改善点も見つけることができた。2017年1月には更なる改善と評価のために改善された防災すごろくを他の小学校でも実践した。また、1月25日には瀬戸市消防本部の方々に、すごろくに出题されている問題を専門的な観点で検討していただいた。</p> <p>その後、2月8日に防災すごろくが完成した。3月中旬にはA1サイズの防災すごろくを110部印刷し、瀬戸市の小学校20校全校に5部ずつ配布、体験後は児童にアンケート調査に答えてもらうことになっている。</p>	
(4) プロジェクトの今後の課題と展望	
<ul style="list-style-type: none">・教員自らの制作なので、問題の解答に信憑性を持たせるために消防など専門家の意見を取り入れる必要がある。しかし、訂正するにあたって、どこまで消防などの専門的な意見を取り入れていくかが課題となる。・今回は小学校高学年向けの防災すごろくを制作したが、中学生、高校生向けのものを今後制作が求められる。・さらには、実動型の避難訓練、知識型の防災すごろくに加え、新たな訓練の提案が望まれる。	